

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に含まれる

鹿児島市の構成資産

日本の近代工場発祥の地 『旧集成館』



はんしゃろあと
反射炉跡

鉄製大砲への挑戦

反射炉は鉄を溶かして大砲を造るためのもの。現在は、1857年に建設され、薩摩在来の石組み技術で精密に造られた2号炉の下部構造が残っている。かつてはこの上に高さ16mほどの煙突がそびえ立っていた。



きゅうしゅうせい かん きかい こうじょう
旧集成館機械工場
(現・尚古集成館 本館)

現存する日本で最も古い洋式工場

1865年に完成した、日本に現存する近代工場として最も古い建物。「ストーンホーム」と呼ばれる洋風建築だが、一部には日本建築の様式も見られる。洋式機械や蒸気機関を用い船舶装備用の部品等を製造していた。



きゅう か ご しま ぼう せき じよ ぎ し かん
旧鹿児島紡績所技師館
(異人館)

日本で最も初期の本格的洋風建築

1867年に日本で初めて設置された洋式紡績工場である鹿児島紡績所で技術指導にあたった英国人技師の宿舎として建築された。日本の洋風建築のうち、現存する2階建住居としては最も初期のもの。

集成館事業を支えた動力と燃料



せき よし そ すい こう
関吉の疎水溝

集成館の動力水車に水を供給

集成館の工場に必要な動力(水力)を得るために築かれた水路の取水口跡。ここから約7kmに渡って導水。磯地区にも集成館への水路跡が残っている。



てら やま すみ がま あと
寺山炭窯跡

集成館で使用する燃料を製造

1858年、反射炉などの燃料として用いる白炭(火力の強い木炭)を製造するために建設された。集成館に近く白炭に適した木材が多いため寺山に造られたと言われる。



※鹿児島市の構成資産は、「旧集成館(反射炉跡、旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館等)」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」の3つです。

歴史年表

鹿児島 の主な動き	集成館事業はじまる 反射炉建造に着手 ●1851	関吉から集成館へ 給水開始 ●1852	反射炉 (2号炉)完成 ●1857	寺山炭窯 完成 ●1858	薩英戦争 ●1863	英国へ留学生派遣 集成館機械工場完成 ●1865	鹿児島紡績所完成 鹿児島紡績所技師館完成 ●1867	西南戦争 ●1877
国内の 主な動き		●1853 ペリー艦隊浦賀に来る		●1862 生麦事件		●1868 明治政府誕生	●1872 富岡製糸場完成	

世界文化遺産 - 明治日本の産業革命遺産 -

鹿児島エリア
遺産情報



「集成館」旧集成館 寺山炭窯跡 関吉の疎水溝